

地域を知ろう(45) 民話・伝説 No.25 区内一の石仏蔵尊

区内一の石仏蔵尊

高円寺南二丁目三十九番十九号にある曹洞宗のお寺である瑞祥山鳳林寺に、ある延命地藏を書いてみました。

お地藏様の高さという大石仏です。造られたのは元文二年(一七三七)といわれています。二百五十年位前から、この時代なもので、吉宗の時代なものです。

この鳳林寺といふお寺は、杉並の多くのお寺と同じ様に、ご府内の牛込に、一五五八年(徳川家康が江戸の城に入ったのが一五九〇年)で、創立された古いお寺さんで、その後移転などして、いまは、この高円寺の地に納まったのは、正三年(一九一四年)です。

ただ、この地藏様は、始めから鳳林寺の中、建てられませんでした。

延命地藏は、修業僧の清雲というお坊さんが、人々の無病息災と幸福を招くようにと、三百余名の支援者の協力を得て出来上がったものです。が、当時石仏は新宿戸塚の夾山寺(かつさんじ)に建てられたのです。

この石仏の台座には、清雲が全国のお寺や神社を廻り、

香が絶えることがなかつたと言われている。このお寺さんが明治七年に鳳林寺に合併された時に移されたものです。

今は背の高い屋根付きのお堂に納まつています。区内随一、都内でも有数なこの地藏様を見上げて、拝めば、ご利益があるでしょう。



その時、ただいた言、御札を納めたと言われ、人々がこのお地藏様に詣り、すれば、全国の神社仏閣にお詣りしたと、ある様なお利益が、あると言われ、戸塚時代には、人々の信仰も厚く、お線

こうしてみると、私の周囲にもいろいろな石仏があるもので、すね。